

トラック輸送情報（平成16年3月分）

平成16年 6月 4日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

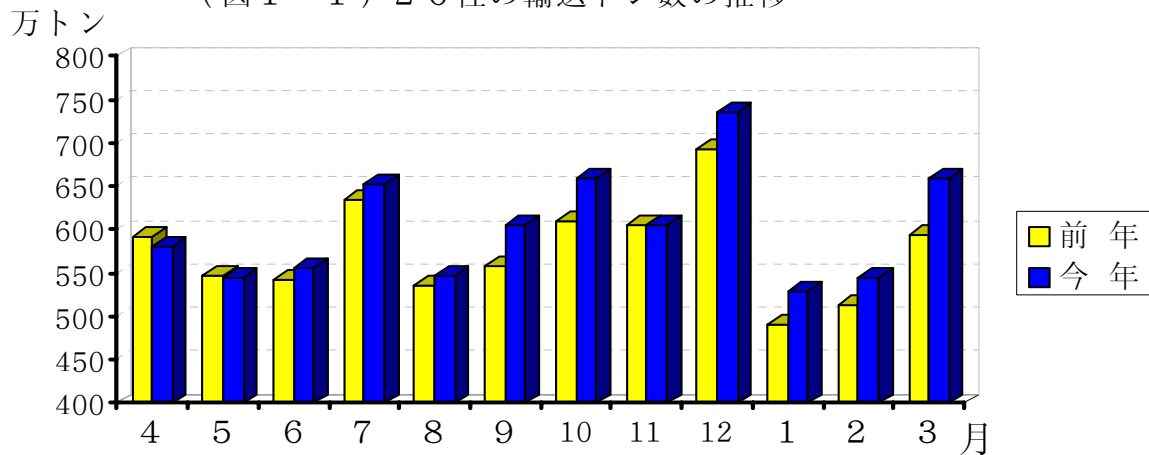
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

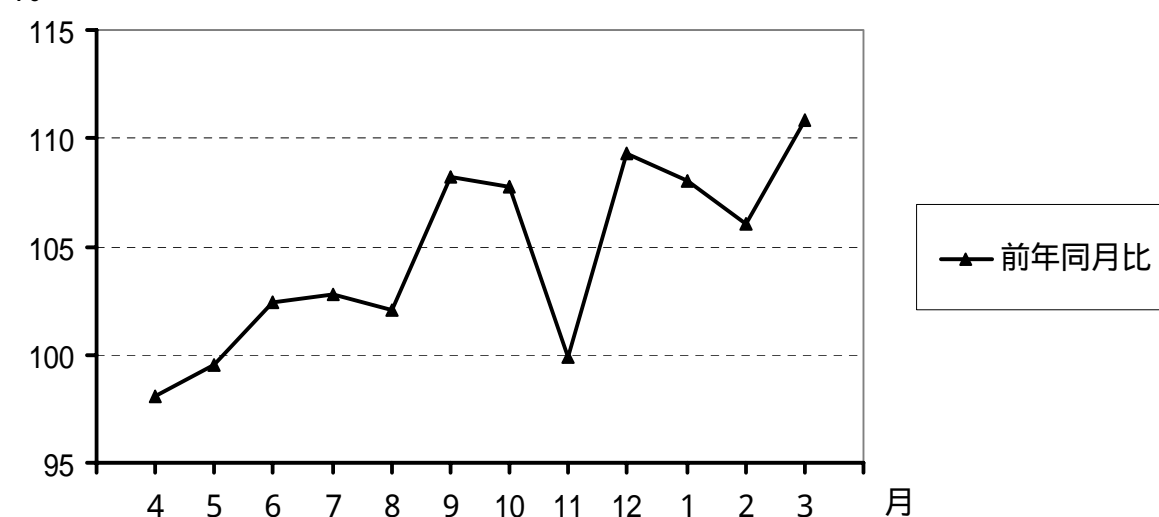
調査対象26社の本月の輸送量は、6,586,014トンで、前月と比べ、総輸送量が約114万トン増加したため、前月比120.9%（季節調整済み103.3%）、前年同月と比べると、約64万トン増加したため、前年同月比110.8%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、25.1日で、前月と比べ、2.6日の増加、前年同月と比べると、0.5日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、262,391トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比108.4%、前年同月と比べると、約2万トン増加したため、前年同月比108.6%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



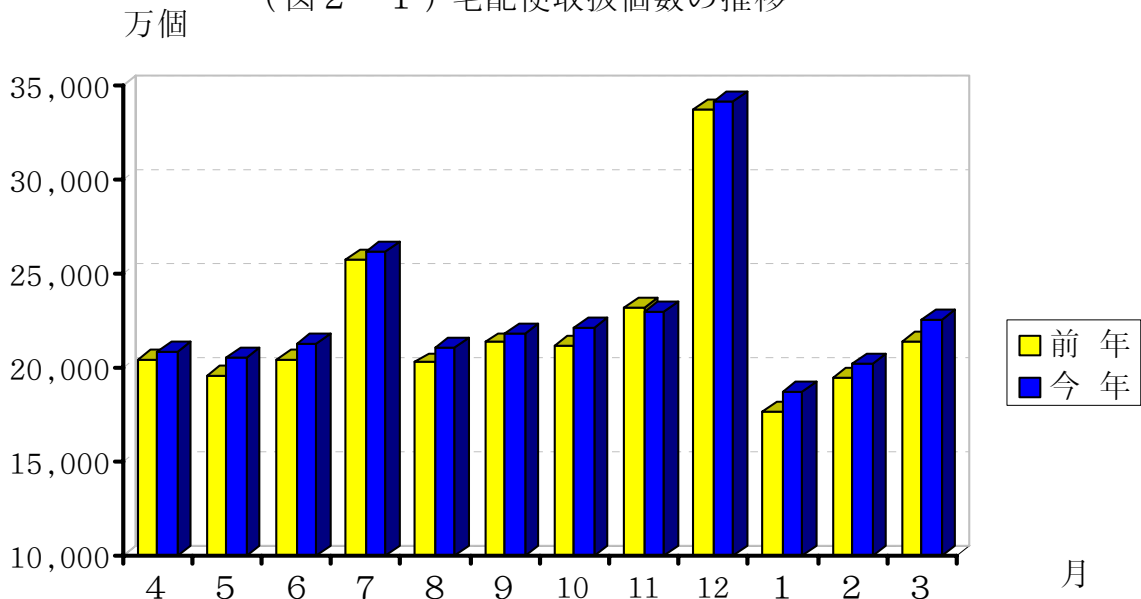
(図1-2) 26社の輸送トン数の前年同月比



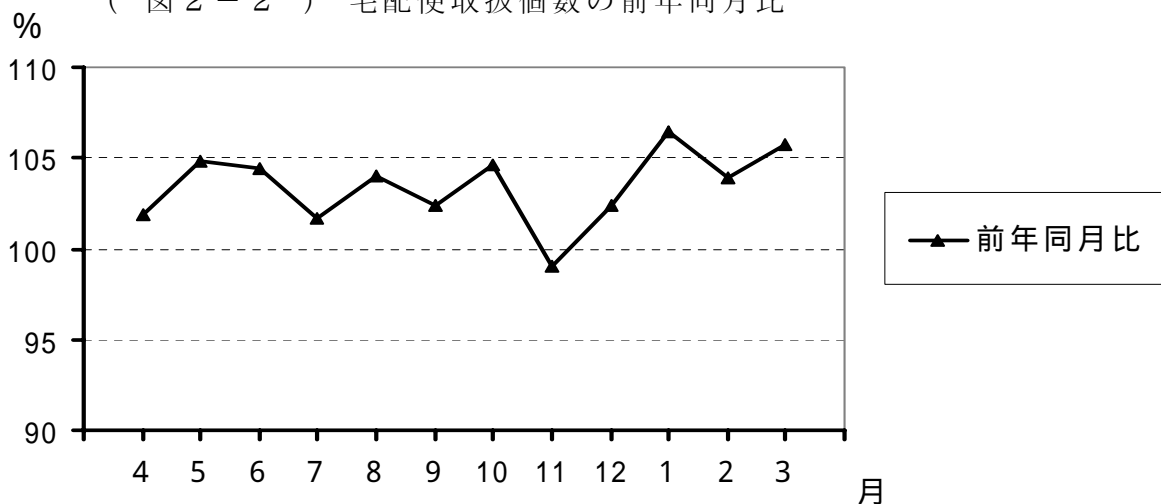
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、225,803千個で、前月と比べ、約2,385万個増加したため、前月比 111.8% (季節調整済み103.1%)、前年同月と比べると、約1,215万個増加したため、前年同月比 105.7%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1 参照)

前月と比べると、稼働日数増、年度末決算期並びに引越シーズン等による需要増の傾向が見られ、ほとんどの品目で増加傾向を示している。ほとんどの品目で工場・生産地の貨物増や季節的な需要増を主な理由としており、機械、化学工業品、日用品は倉庫からの貨物増も理由となっている。地域的には農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に輸送増が見られた。農水産品は東北、九州地区で輸送増が見られた。

前年同月と比べると、化学工業品、日用品を中心に関東地区において工場・生産地からの貨物減を主な理由に減少しているものがあるものの、農水産品を除くほとんどの品目において関東、近畿を中心として、工場・生産地及び倉庫からの貨物増に加え、景気の回復を理由とした増加が見られた。食料工業品、その他(宅配貨物)はデパート、スーパーからの貨物増も見られた。このため、全体の輸送トン数が増加した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 らず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	12		野菜、その他農産品	東北、九州	4
	金属製品	3	3	12	2	建築用金属製品	関東、北陸信越、近畿、中国	4, 8
	機 械	3	4	13	1	機械部品、その他の機械	全国	4,7,8
						家電品、電子部品	関東	4
	化学工業品	3	12	6	1	塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	関東、北陸信越、近畿、中国	4,7,8
	繊維工業品	3	5	13	1	織物	関東、北陸信越、中部	4, 8
	食料工業品	3	7	7	4	加工食品	東北、関東、中部、近畿	4,5,8
						加工食品、飲料	関東、近畿	4,5,7
日用品	5	10	6		書籍、身廻品、衣服、玩具	全国	4,7,8	
その他	3	7	9	1	宅配貨物、百貨店配送品	関東、近畿	2,4,8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		4	13		野菜、その他農産品	北海道、九州	4
	金属製品	1	4	13	2	建築用金属製品	関東、北陸信越、近畿	4, 9
						建築用金属製品、工具	関東	4,5,6,9
	機 械	2	3	15	1	電気機械、機械部品	関東、北陸信越、近畿、中国	4, 9
						家電品、電子部品	関東	4
	化学工業品	1	6	9	6	塗料、化学製品	東北、関東、近畿	4, 7
						塗料、合成樹脂、化学肥料	関東	4, 7
	繊維工業品	3	1	15	3	繊維	関東、中部、近畿、中国	4, 9
						糸	東京、北陸信越	4
	食料工業品	1	6	12	2	加工食品、飲料	関東、北陸信越、近畿	2,4,5,7
加工食品						東北、関東	5	
日用品	2	4	11	4	書籍、印刷物、身廻品、その他日用品	東京、関東、近畿	4,7,9	
					文具、家庭用雑貨品	東北、東京、近畿	4, 9	
その他	2	5	10	3	宅配貨物、百貨店配送品、引越貨物	関東、近畿	2,4,9	
					宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、関東	10	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 832社 / 調査対象事業者数 1,069社）の輸送量は、前年同月比 104.9%、前月比 109.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	104.9%	108.8%	101.1%	102.0%	109.1%	107.6%	107.7%	102.6%	101.9%	100.3%	108.1%
前月比	109.9%	108.6%	107.6%	112.5%	115.0%	108.7%	112.4%	112.6%	108.0%	109.1%	118.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>排雪作業が減少したことによる「廃棄物（雪）」が、また土木工事の需要減により「砂利・砂・石材」等の輸送が減少したが、年度末や引越シーズンに伴う「取り合せ品（引越貨物）」、「日用品」をはじめ、各品目で輸送が増加したことから対前月比108.6%と増加した。また、一部地域で大雪に伴う排雪作業が引き続きおこなわれており、「廃棄物」に輸送増があったことから、対前年同月比108.8%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
東北	<p>年度末の引越などにより「食料工業品」「日用品」「取り合せ品」の輸送量増加、また農繁期を迎え「化学肥料」の輸送量増加が見られた。このため、対前月比は107.6%、対前年同月比は101.1%であった。今後の輸送見通しは年度末繁忙期を過ぎることもあり、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
関東	<p>年度末ということもあり、引越をはじめとした需要の増加がみられたため、「取り合せ品」「その他の石油製品」等を中心に輸送量が増加した。この結果、対前月比は112.5%、対前年同月比は102.0%とともに増加した。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>年度末の需要増ならびに決算期等により全体的に輸送量は増加している。特に引越等により「取り合せ品」が、土木工事の増加等により「その他の窯業品」「木材」等の輸送が増えている。その反面で気候が暖かくなったため「その他の石油製品（灯油）」の減少が目立っている。このため、対前月比115.0%、対前年同月比109.1%となった。今後の輸送見通しについては次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中部	<p>年度末繁忙で対前月比108.7%と増加となった。対前年同月比についても稼働日が多かったため実働率が上昇し、107.6%と増加した。輸送品目としては、引越等による「取り合わせ品（引越荷物）」、空港建設の関連で「その他の製造工業品」が、また輸出増により「繊維工業品」の輸送が増加した。減としては、季節的に暖かくなったため「その他の石油製品（灯油）」が減少した。今後の見通しについては、繁忙期の翌月であることから、次月及び以降とも減少傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>年度末の需要増により2月より輸送量は増加している。品目別に見ると「日用品」「機械」の増加が目立っている。これは引越や公共工事の季節的需要が大きいと思われる。他にも「紙・パルプ」等の増加もあり、対前月比112.4%、対前年同月比107.7%となった。今後の輸送見通しについては、次月及びそれ以降とも減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>決算期ということもあり全体的に輸送量が増えたことにより対前月比は112.6%となった。引越等により「取り合せ品」「日用品」の輸送が目立っている。対前年同月比は102.6%とわずかな伸びであったため、輸送業界に明るい兆しがさしているとは言い難い。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>「非鉄金属」「金属製品」「機械」「化学肥料」などの工業製品、「日用品」「廃棄物」「取り合せ品」が季節的需要による増加の一方、「穀物」「野菜・果物」「畜産品」の減少があったが、稼働日数増や年度末であり対前月比108.0%と増加した。また、対前年同月比も101.9%と増加した。今後の輸送見通しについては、3月が年度末需要に伴う一時的な増加であり、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
九州	<p>多くの事業者が先月よりも輸送量が増加したとの感触を持っている。品目別に見てみると、「野菜・果物」「機械」「食料工業品」「日用品」「取り合せ品」の輸送量が増加しているようである。理由としては、引越や、年度末における公共工事件数が増加などの季節的な要因が主なものと考えられる。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降とも減少の傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>彼岸に向けての「その他の農産品（切り花）」、引越期による「取り合わせ品（引越貨物）」及び「紙・パルプ（段ボール）」の輸送需要増加がみられたことにより、対前月比では118.0%、対前年同月比では108.1%とともに増加した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にあると予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	5
	減	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
2. 野菜・果物	増	1	0	1	2	1	1	0	1	8	0	15
	減	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
3. その他の農産品	増	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	5
	減	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	6
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
5. 水産品	増	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6. 木材	増	5	0	0	3	0	0	0	0	2	0	10
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	2	2	0	1	0	2	2	0	1	0	10
	減	10	0	0	1	0	0	4	0	6	0	21
11. 工業用非金属鉱物	増	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	4
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12. 鉄鋼	増	1	0	1	3	0	1	1	0	2	0	9
	減	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	5
13. 非鉄金属	増	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	7
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	2	1	2	0	1	2	1	1	1	0	11
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
15. 機械	増	1	3	3	1	2	4	2	1	10	0	27
	減	0	0	1	0	1	0	1	0	2	1	6
16. セメント	増	2	1	0	2	0	0	1	1	0	0	7
	減	3	1	0	2	0	1	3	0	2	0	12
17. その他の窯業品	増	1	3	0	3	0	0	1	0	1	0	9
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3

